

会 議 録

会議の名称		令和 8 年度第 1 回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和 8 年(2026 年) 5 月 28 日 (木) 開会 14:00 閉会 15 : 45		
開催場所		つくば市立学園の森義務教育学校多目的室 1		
事務局 (担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	柴崎 弓子、山崎 裕一、横江 貴之、山中 紗恵子、 富江 晃、野堀 憲、村上 義孝、石黒 正美、 中野 真粧美、 学園の森義務教育学校：校長 永井 英夫、 副校長 芳賀 千重、教頭 中川 卓浩、佐藤 麻美 教務主任 三浦 健一、山田 恵美 副教務主任 稲葉 義智		
	その他			
	事務局	教育局生涯学習推進課 社会教育主事：柴崎 英二		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				
議題		熟議テーマ「学校・地域・家庭をつなぐ教育活動とは」		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 任命書交付 3 挨拶 4 説明・報告事項 ・令和 8 年度つくば市のコミュニティ・スクール重点項目について ・令和 7 年度地域と学校の連携事業決算報告及び令和 8 年度地域と学校の連携事業予算計画について 5 会長・副会長の選出 6 協議			

	(1) 学校運営の基本方針について (2) 熟議 テーマ「学校・地域・家庭をつなぐ教育活動とは」 (3) その他 ・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について ・諸連絡等 7 閉会
--	--

<審議内容> 1 開会 佐藤委員：ただ今から、令和8年度第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール協議会を開会する。はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたい。事務局案としてつくば市立学園の森義務教育学校山田先生にお願いしたい。 → 承認 2 任命書交付 3 委員の自己紹介 → 順に自己紹介 4 説明・報告事項 ・令和8年度つくば市のコミュニティ・スクール重点項目について 事務局：・つくば市のCSは、地域と学校で子供の学びと育ちを支える、大人がつながる、静かに、長く、温かくという視点を大切にしている。 ・20ページに評価ガイドラインがある。年度末に振り返る視点を先に知った上で、本年度の活動を進めていただきたい。 ・昨年度まで、写真等は外部に漏らさないよう配慮していたが、コミュニティ・スクールの周知のため、今年度は最低限のルールを守ったうえでSNS等にあげでも構わない。掲載されたくないという委員は事前に相談を。 ・令和7年度地域と学校の連携事業決算報告及び令和8年度地域と学校の連携事業予算計画について 佐藤委員：本年度、75万円の予算がついている。地域と連携しながら子供たちに何ができるか熟考して用途を検討したい。昨年度は非認知能力について講演を行い約38万円を充てた。今年度も同様の講演会を予定している。 5 会長・副会長の選出 佐藤委員：委員の互選により選出する。→ 立候補なし 事務局の提案により、会長を村上義孝委員、副会長を石黒正美委員にお願いしたい。 → 承認 6 協議 (1) 学校運営の基本方針について 永井委員：基本的な生活習慣が身に付いている学園生がほとんど。良い雰囲気の中で日々明るい笑顔が見られる。また、近年はスポーツ面での活躍も目覚ましく、大変嬉しく感じている。一方で自己有用感、肯定感が低い学園生もいる。本校としては、非認知能力を育てながら、	
---	--

活躍の場を増やしたいと考えている。また、変化の多い社会の中で、課題に対し主体的に取り組める学園生を育てたい。さらに、今年度は認知能力と非認知能力をバランス良く育てていきたい。会計年度職員を入れると 150 人以上の職員がおり、加配教員が 10 人ほどいる。組織としては大規模だが、核となる先生を中心に連携して動いている。部活動に関しては、学園の森 S C を立ち上げ、学校として地域展開ができる体制が整ってきた。本年度は異動してきた教員が多くいたが、色々なことに積極的に関わろうとする、やる気のある教員が多い。そのため帰りが遅くなっている教員もいるので、その点は気を付けていきたい。メンタルヘルスについては皆で声を掛け合いながらチームで取り組んでいる。職務に対する満足度調査では好結果が得られた。

石黒委員：スクールモットーに挑戦・協働・創造がまた入ったのはなぜか。

永井委員：教頭時代から挑戦・協働・創造は大切にできており、自律・協創・大志にもこれまでの挑戦・協働・創造の思いが込められていたが、それが伝わりにくかったので、このような記載にした。

中野委員：昨年度まで外側に掲示してあった横断幕が外されてしまい、さみしく感じていた。当初の、挑戦・協働・創造の精神を継続していただいているのは理解した。このスクールモットーの説明の書き方は、前期課程には難しいのではないか。

永井委員：昨年度より少し柔らかい感じにして、目標も立て直している。説明も学年に応じたものを作成している。確かに、低学年には難しいかもしれないが、指導するときには低学年にも理解できるよう気を付けている。

村上会長：学校経営方針について承認いただける方は拍手を。 →承認

(2) 熟議

【テーマ】「学校・地域・家庭をつなぐ教育活動とは」

佐藤委員：本校の S D G s の取り組みは、S D G s クラブという特設クラブを設けている。職員から上がってきた地域の人たちをお願いしたいこと、協力したいことについて S D G s の観点も踏まえながら、実現可能なものについて検討したい。どのようにすれば実現できるかという観点や、これ以外にもこんな取り組みがおもしろいのではないかとという提案をグループごとにしていきたい。

【流れ】

- ① 学森職員から挙げた要請についてグループごとに話し合う。（紙にまとめる）
- ② 情報共有及び意見交換：20 分アイディアを出し合う、話し合い後、発表する。

< 1 班 >

- ・ C S メンバーが協力して、学園生が行きたい場所で町探検を行うのはどうか。

< 2 班 >

- ・企業や博物館等、地域の様々な分野の方にゲストティーチャーとして来てもらうのはどうか。
- ・秋祭りに地域の人を呼んだり、昔のおもちゃ遊びなどを絡めて行ったりするのも良いかもしれない。

< 3 班 >

- ・筑波大学へ子供たちが行き一緒に活動をさせてもらうのはどうか。
→C S が主体になる活動が望ましい。
- ・来年度学森が 10 周年を迎えることから、地域を巻き込んで祭りのようなイベントを行うのはどうか。

< 4 班 >

- ・C S 委員の人脈を活用して、美術の分野などのゲストティーチャーを呼ぶことは可能である。
- ・過去に保護者に協力いただき、キャリア教育の話をしてもらうということをした。
- ・つくば市の出前授業を活用するのも一案である。
- ・祭りやイベント募集などの広報の方法として、チラシやポスターを作成したり、美術部協力のもと、横断幕作りをしたりする等が可能な選択肢として考えられる。
- ・C S で活用できる事業や人材を提案するリストを作るのはどうか。

(3) その他

- ・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について

佐藤委員：今後は、10 月 22 日、2 月 18 日に開催を予定している。

中野委員：校内の様子から、校長先生が子供たちをたくさんほめたいという気持ちを感じられる。しかしながら横断幕は作成にかなりの費用がかかる。予算は教育支援費から出ていると思うが、今年度の予算はどうなるか。また、他の中学校とのバランスも考慮すべきではないか。

永井委員：前任校の谷田部東中学校でも同じように横断幕を作成していた。横断幕については PTA にも相談している。楽器などの購入も認めてもらっている。今年も昨年度と同じように進めたいと考えているが、この点については PTA と相談しながら進めていきたい。

- ・諸連絡等

事務局：昨年度のアンケートの結果を示した紙があるので確認したうえで今年度の活動を進めていただきたい。新任委員のために、C S を説明した動画を作成している。Teams を活用した連絡体制の構築を目指している。

7 閉会

本日の会議の様子や写真はつくば市教育委員会ホームページに掲載予定

令和 8 年度第 1 回学園の森コミュニティ・スクール 協議会

日時：令和 8 年 5 月 2 8 日（木）1 4：0 0～

場所：学園の森義務教育学校 多目的室 1

次 第

1 開 会

2 任命書交付

3 挨拶

4 説明・報告事項

- ・令和 8 年度つくば市のコミュニティ・スクール重点項目について
- ・令和 7 年度地域と学校の連携事業決算報告及び令和 8 年度地域と学校の連携事業予算計画について

5 会長・副会長の選出

6 協 議

(1) 学校運営の基本方針について

(2) 熟議 テーマ「学校・地域・家庭をつなぐ教育活動とは」

(3) その他

- ・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について
- ・諸連絡等

7 閉 会



2026 つくば市立学園の森義務教育学校 グランドデザイン



【学園教育目標】
未来を志向し、心豊かにたくましく生きる学園生の育成
～「学びをつなぎ、心をつなぐ」小中一貫教育を通して～

<本県教育目標>

ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し、協力しあう
心を育てる

【学校経営の方針】

共に学び、共に磨き、共に育ち、共に拓く学園づくり

<つくば市の目指す 学園・学校像>

みんなが幸せを実感できる
学園・学校
～自己実現できる学校・み
んなで支え合い、みんなが
生き生きとした学校～

学園生像 【自律・共創・大志】

- ◎自分を見つめ、未来を見つめ、自ら学び、自ら
考え行動できる学園生(自律し挑戦する)
- ◎心豊かに誠実に行動し、共に未来を創造でき
る学園生(協働し共創する)
- ◎夢や可能性に意欲的に挑もうとする活力に満
ちた学園生(大志を抱き創造する)

学 園 像

- 学園生が「志」に向かって輝く学園
- 教師が「やりがい」をもてる学園
- 保護者や地域から「信頼」される学園

教 師 像

- 熱意と愛情をもち生徒に寄り添う教師
- 指導力と実践力のある教師
- 未来を見つめ、改革意欲のある教師

9年間で育む

学森の大樹

【未来を
たくましく、
しなやかに生きる力】



スクールモットー
【挑戦・協働・創造】

組織目標

- 未来を志向し、「能動的な学び」の具現化を図る授業づくり
- 一人一人が「自己決定」し、共に夢や可能性に挑める集団
づくり

<2026教育の重点>

- ◎系統的な認知・非認知能力の育成
～自分と向き合い、他者とつながり、
自分を高める～

学園スローガン

Move your heart!

夢に挑み 未来を拓く

「学びに向かう」プロジェクト

【重点目標】

- *「能動的な学び」への具現化を図る授業づくり
- ◆探究的・協働的な学びの実現に向けた授業づくり
 - ・知的好奇心を高める課題の工夫
 - ・「問いの発見」、「アウトプット」、「まとめ」、「振り返り」を重視したPBL型学習の充実
 - ・未来を拓く探究タイム(特設学習、SDGsクラブ)
- ◆「個別最適な学び」の充実に向けた教育の推進
 - ・思考を広げ、深めるためのICTの利活用
 - ・生成AIや遠隔教育事業の活用
- ◆つくばスタイル科を核とした教科横断型の学習や
STEAM教育の推進(地域教育資源の有効活用)
- ◆義務教育学校の特色を生かした教育活動
 - ・3年生からの一部専科授業
 - ・5、6年生における教科担任制の充実
 - ・6、7年生における協働的な探究活動
 - ・中・後期ブロックの教員の交流
- ◆「教育支援計画」を活用した「切れ目のない」特別支
援教育の充実(専門家との連携)
- ◆個別の指導計画に基づいた合理的配慮

【数値目標◎80%以上○70%以上】

- ◎授業で自ら学び、自ら考えをもつ(向き合う)
- ◎他者との学びを課題解決に生かす(つながる)
- 学習の「まとめ、振り返り」を重視する(高める)

「豊かさ・しなやかさ」プロジェクト

【重点目標】

- *互いを尊重し合える人間関係の醸成
- *「自己決定」できる集団づくり
- ◆9年間のつながりを意識した教育活動
 - ・「夢を実現」する系統的なキャリア教育
 - ・ブリッジプロジェクト(4、7年)の実施
 - ・非認知能力を育む豊かな体験学習及び系統的な
生活ノート(学森プランナー等)教育の充実
- ◆縦割り班活動(前・中・後期ブロック集会の実施)
- ◆自治能力の育成を目指す学園生徒会活動
 - ・「リーダー研修会」を核とした自治的行事
 - ・有志による学園生徒会活動「虹の架け橋隊」
 - ・いじめゼロフォーラムの実施
- ◆共に創り上げる話し合い活動の充実
 - ・合意形成力を育むルールメイキング
 - ・未来を志向し、非認知能力を高める学校行事
- ◆学園行動目標を生かした自主性・自律性の育成
- ◆「折れない心」の育成と組織を生かした教育相談
- ◆柔軟な指導体制による道徳教育

【数値目標◎80%以上○70%以上】

- ◎失敗を次に生かすことができる(向き合う)
- ◎相手の気持ちを考えて行動できる(つながる)
- 自分を信じ、夢の実現に挑もうとする(高める)

「たくましさ」プロジェクト

【重点目標】

- *健康で安全な生活を送る体力づくり
- *安全・安心な環境づくり
- ◆健康教育プログラムの実施
 - ・「早寝早起き朝ごはん」プロジェクトの推進
 - ・栄養教諭による計画的な食育指導の充実
 - ・目の健康(学森あいあいタイム)の実施
- ◆非認知能力を育む体力向上プログラム
 - ・発達段階に応じた年間を通じたプログラムの
実践
 - ・目的意識を持たせた体育の授業、部活動の
充実(6年生の体験活動)
 - ・部活動地域展開の推進(学森SCの設立)
- ◆地域と学校の協働による探究的な体験活動
- ◆系統的な安全教育の実践を通じた自己管理
能力の育成
- ◆事故の未然防止と組織での迅速な初期対応
- ◆保護者・地域と連携した防災教育、安全教
育、情報モラル教育等の充実
- ◆教職員によるシミュレーション訓練

【数値目標◎80%以上○70%以上】

- ◎前向きな気持ちで生活できる(向き合う)
- ◎共に健康や安全を考え行動する(つながる)
- 心身ともに成長していると思う(高める)

地域とともにある学校づくり

□地域とともに歩む学校づくり

- ・地域、保護者との協働体制の構築
- ・積極的な情報発信と学校評価の活用
- ・外部人材を活用した補充学習
- 大学・研究機関・企業との連携

RPDCA

学校評価

CS(コミュニティ・スクール)

□教職員の資質・能力の向上

- 「与えられる研修」⇒「求める研修」へ
- ・「学びの連続性」を保障する学園研修
- ・業務の効率化を図る学校のデジタル化
- ・教員評価を生かした資質・能力の向上

働き方改革の推進

【数値目標】超過勤務45時間/月以内

- ・部活動地域展開
- ・末尾1hの有給休暇
- ・休憩時間
- ・日課の工夫

コンプライアンス意識の醸成

【数値目標】不祥事「ゼロ」～自分たちの職場から不祥事を出さない

- ・当事者意識を高める研修
- ・教員評価の活用
- ・組織的な相談体制